

令和5年度第4回甲賀市社会教育委員の会議 定例会議事録

日時：令和5年(2023)年12月21日(木)

15時00分～17時

場所：あいこうか市民ホール展示室

出席者 (委員) 沢井委員長、岡村副委員長、姉川委員、古賀委員、中村委員、西村委員、
辻委員、井ノ口委員、坂上委員、石田委員、以上10名

(学校教育課) 西村課長補佐

(事務局) 伊東課長、岡崎参事、上村課長補佐、森地社会教育指導員

傍聴者 1名

委員総数13名の内、10名が出席。甲賀市社会教育委員会議規則第3条2項の規定により過半数を満たし会議成立。

○市民憲章唱和

1. 開会あいさつ

(委員長)

○教育をめぐる昨今状況

○本日の研修について ほか

2. 研修

○テーマ 「地域との連携・協働で自尊感情を育む」

～湖南省のコミュニティ・スクールおよび地域学校協働活動の状況について～

講師 湖南省教育研究所 法山由紀子 氏

○内容 (1)「自尊感情」の醸成に地域の力

(2)地域とともに子どもを育てる湖南省ビジョン

(3)湖南省各校の取組の状況

(4)持続可能な地域との連携・協働のために

3. 質疑・意見交換

議長：委員長

(委員)

・甲賀市ではコミュニティ・スクール(以下CS)と地域学校協働活動を両輪として、一体的推進を図る方向で進めているが、湖南省の地域コーディネーターはどんな人が就いているのか。また、コーディネーターに期待されていることは何か。

(講師)

・民生委員や学校支援員として関わってくださっていた人など、地域でいろんなことで活躍

されている人で、地域と学校とのつなぎ役が期待されている。

(委員)

・土曜授業の実施状況、コーディネーター会議の回数、また、まちづくり協議会との関わりはどうなっているのか。

(講師)

・県の地域力強化プラン(国事業)に9校が手を挙げている。土曜コーディネーターは年間70時間みてもらっている。夏休み・冬休み集中型もある。コーディネーター会議は年間2回くらい。4月に全員集まって委嘱状を交付するとともに話し合いをする。もう1回は11月から12月でお互いの情報交換をしている。独自に情報交換をされている校区もある。

・土曜・放課後授業はまち協の1室や公民館など校外でされているイメージが強い。

・たいていの学校には「まち協」に関わっている人が参画している。

(委員)

・時間帯の設定など、保護者の理解が必要なことも多いのではないか。地域の活動に行けない子への対応はどうされているのか。

(講師)

・土曜授業のほかに「らくらく勉強会」があり、中学校には「地域事業塾」がある。

・「らくらく勉強会」は、下校中に公民館などで勉強して帰る子がいるので設置されている。そこには、講師となって教えるボランティアと交通整理など安全を守るボランティアがいる。

・地域に関わることで、子どもの笑顔や感謝の言葉に接することができて嬉しく思っている。

(委員)

・CSの評価はされていると思うが、地域学校協働活動の評価はどうなっているのか。

(講師)

・評価項目の中に、CSも地域学校協働活動の評価もある。

・地域コーディネーター(推進員)は地域ボランティアと学校をつなぐ役目がある。

(委員)

・以下の役職を整理したい。①地域学校協働活動推進員(統括コーディネーター)、②地域学校協働活動推進員(地域コーディネーター)、③学習支援員、④地域学校協働活動支援員、⑤地域学校協働活動サポーター、⑥学校応援団・学校ボランティア

(講師)

・①地域学校協働活動推進員を統括する。(現時点で甲賀市は未設置)

②学校と地域の連絡調整、プログラム企画。

③放課後学習支援プログラムを中心として実施。(②・③謝礼有)

④地域学校協働活動の運営を支援する。

⑤地域学校協働活動実施時のサポートおよび安全管理。

⑥学校応援団や学校ボランティアは旧来からの呼び名。

(議長)

- ・ 湖南省は CS の必要性を感じて始めておられることがわかった。

4. その他

(委員長)

- ・ 過日、「近畿社会教育研究大会」の反省会があった。

話題になったことは、主として、「記念講演の内容」と「立命館大学 BKC の会場選定」。

- ・ 記念講演は、どのようなテーマでお話をいただくのかがいいのかを詰めておきたい。今年度は、滋賀県立大学地域共生センター特任講師 上田洋平氏に、「ここで ともに ぶじに生きる」とのテーマでお話をいただいた。

- ・ 立命館大学は多くの教室があり、分科会会場として適していた。小グループでの話し合いも円滑に進んだ。

(参加委員)

- ・ 記念講演では地域づくりの視点を変えることができた。
- ・ 参加した第一分科会「学校・家庭・地域学校協働活動の協働」の報告。
 - ・ テーマは、「地域と学校の連携・協働を推進する ～大学の専門性を学びに生かす～」
 - ・ 問題提起者は、京都長岡京市社会教育委員会議島袋委員長。
 - ・ 内容は、①すくすく教室（＝放課後子ども教室推進事業）②中学校教育支援事業③立命館高等学校との協働事業④京都西山短期大学と長岡京市との協定ほか。
 - ・ 声楽がご専門の島袋委員長。話の中に歌もあり、市民講座を受けているような空気の中で、多くの学びがあった。

(参加委員)

- ・ 第 4 分科会に参加、テーマは「家庭教育支援」。問題提起者は大阪府。
 - ・ 「親の学ぶ会」の取組報告は、バラエティに富む内容であった。ただ、父親の参加が少ないのが課題となっていた。
 - ・ 活発なグループ討議がなされ、いろいろな地域の人と話し合える機会がもてよかった。

(委員長)

- ・ 地域学校協働活動にかかる人員配置および予算要求について、今後の予定を聞きたい。

(事務局)

- ・ 社会教育統括指導員については 1 名の予算要求をしている。
- ・ 社会教育統括指導員は社会教育指導員とともに、CS にもかかわっていくようにしたい。
- ・ 自治振興会との連携が課題の一つになっている。
- ・ 11 月 16 日の資料を次回の定例会（2 月中旬まで）で用意してほしい。

(委員)

- ・社会教育委員の任期を揃えられないか。

(事務局)

- ・社会教育委員は条例に基づいて設置されているものであるが、検討していきたい。

5. 閉会あいさつ

- ・副委員長：国会予算委員会傍聴の経験ほか。